平成３０年７月豪雨

周南市災害ボランティアセンター
活動報告書

平成３０年９月

社会福祉法人　周南市社会福祉協議会

◆　目　次　◆

ごあいさつ　・・・・・・・・・　1

Ⅰ　平成３０年７月豪雨災害の経過
1　災害発生の背景　・・・・・・・・・　2
2　気象に関する注意報や警報等の主な経過　・・・・・　3
3　被害状況　・・・・・・・・・　4
4　避難状況の主な経過　・・・・・・・・・　5

Ⅱ　周南市災害ボランティアセンターの開設
1　周南市災害ボランティアセンターの開設の経緯及び経過　・・　7
2　周南市災害ボランティアセンターの運営　・・・・・　8
3　周南市災害ボランティアセンターの活動の流れ　・・・・　１０

Ⅲ　被災地への支援～ボランティア活動～
1　ボランティアの活動状況　・・・・・・・・・　１２

Ⅳ　復興を支える様々な支援
1　支援金や物資の贈り物　・・・・・・・・・　１５
2　外部団体の協力　・・・・・・・・・　１７

Ⅴ　振り返り　・・・・・・・・・　１８

Ⅵ　資料　・・・・・・・・・　２０

ごあいさつ

西日本を中心とした平成３０年７月豪雨は、全国で死者２２１名、負傷者３１９名、被災世帯は５万世帯以上にもおよぶ甚大な被害をもたらし、今もなお行方不明者９名の捜索活動が続いています。（平成３０年９月３日１８時現在）

周南市においては、熊毛地区を中心とした地盤の緩みによる土石流の発生や堤防決壊による河川の氾濫、浸水により死者１名、負傷者３名、被災世帯は１１０世帯にもおよぶ被害を受けました。

ここに改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、発災以降、周南市災害ボランティアセンターの運営にあたって、スタッフの派遣や支援金並びに物資の提供、そして多くの温かい励ましのお言葉など、多大なるご支援をいただいたことに対し心から感謝申し上げます。

本会は、被災された方が一日も早く日常の生活に戻れるよう、周南市災害ボランティアセンターを開設し、生活居住空間の復旧・復興を中心としたボランティア派遣などの被災者支援活動を約３週間行ってまいりました。

また、周南市災害ボランティアセンター閉所後は、周南市災害支援相談窓口を設け、被災者からの生活相談を受け付け生活支援のための取り組みも行ってまいりました。

現在は、周南市災害支援相談窓口を閉鎖しておりますが、今後もできるだけ地域住民の皆様に寄り添い、個人や地域の支援を通して福祉のまちづくりに努めてまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

なお、この活動報告書は、本会が開設した周南市災害ボランティアセンターの運営や被災者支援活動などについてとりまとめたものになります。

本活動報告書の作成にあたりご協力をいただきました関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成３０年（2018 年）９月

社会福祉法人 周南市社会福祉協議会

会　長　　佐　原　　昌　弘

Ⅰ　平成３０年７月豪雨災害の経過

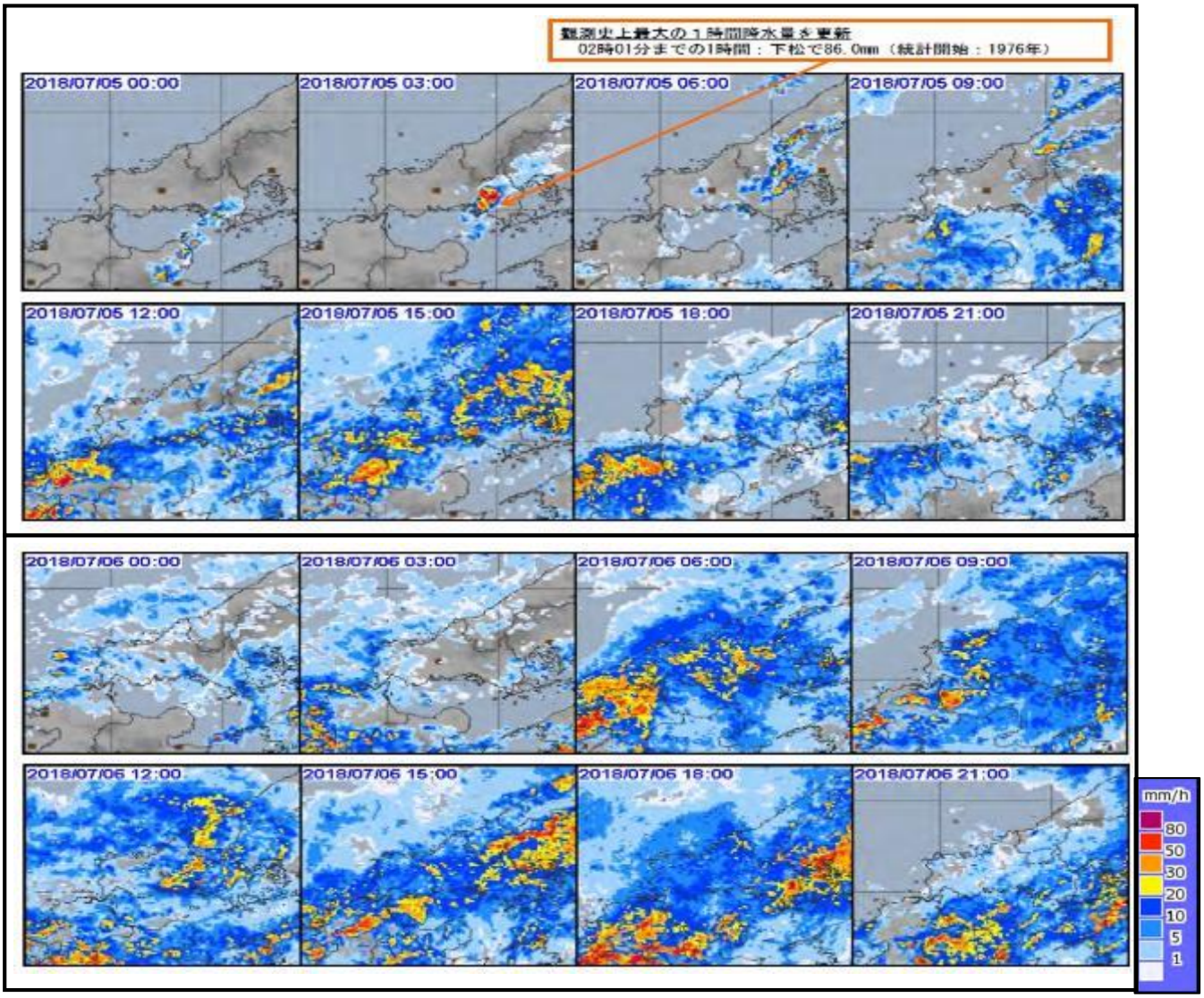
１　災害発生の背景

６月２８日以降、華中から日本海を通って北日本に停滞していた前線は７月４日にかけ北海道付近に北上した後、７月５日には西日本まで南下してその後停滞しました。また、６月２９日に日本の南で発生した台風第７号は東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、７月４日１５時に日本海で温帯低気圧に変わりました。

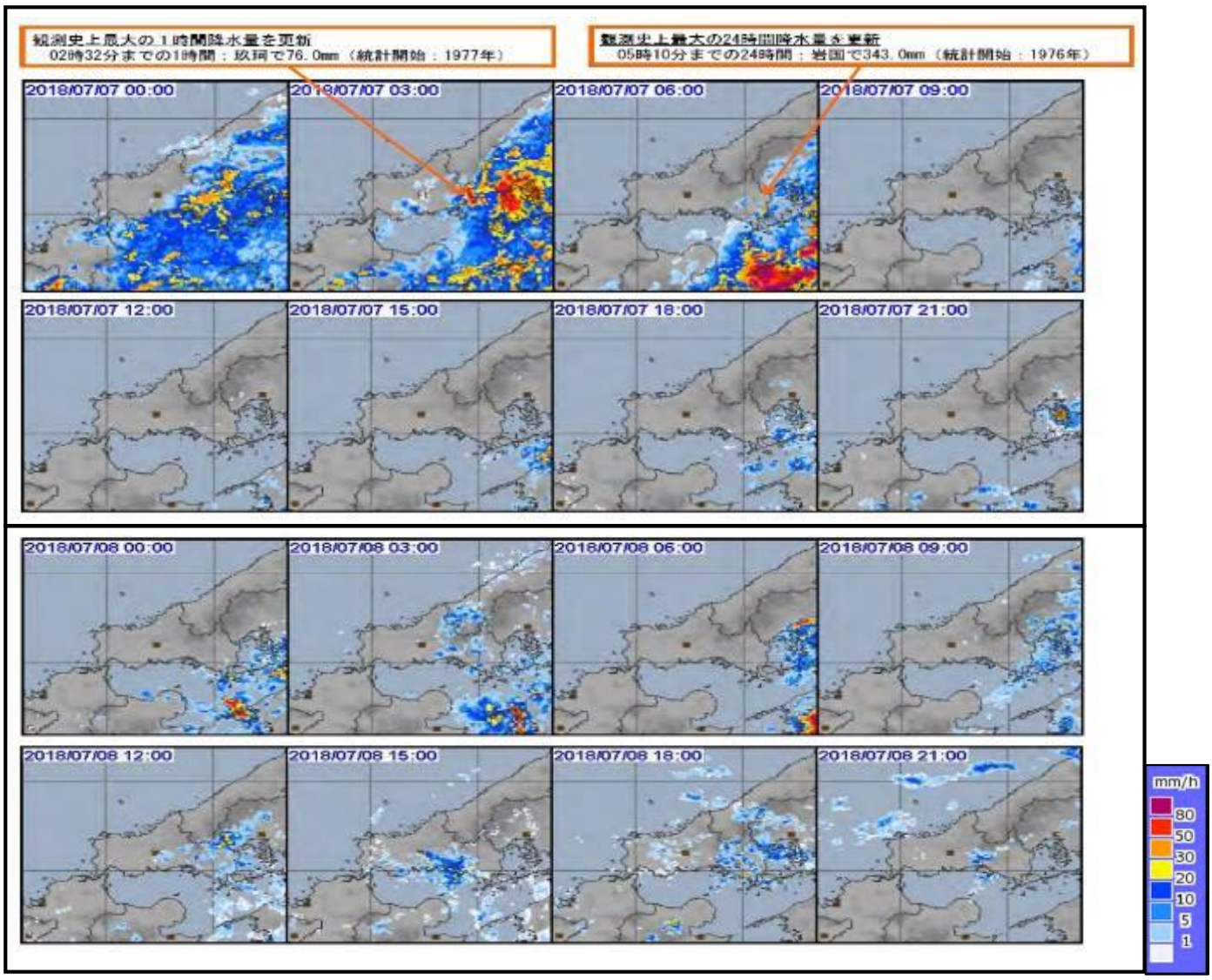
前線や台風第７号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。

山口県においても、７月５日未明から８日にかけて、広い範囲で非常に激しい雨が降りました。周南市もこの非常に激しい雨の影響により、地盤が緩み山の崩落や土石流の発生、河川の堤防決壊、浸水により住宅等への甚大な被害をもたらしました。

≪レーダー画像≫



【出典】気象庁「平成 30 年 7 月豪雨（前線及び台風第７号による大雨等）の概要」、下関地方気象台「平成 30 年 7 月 5 日から 8 日にかけての山口県の大雨について」



【出典】気象庁「平成 30 年 7 月豪雨（前線及び台風第７号による大雨等）の概要」、下関地方気象台「平成 30 年 7 月 5 日から 8 日にかけての山口県の大雨について」

２　気象に関する注意報や警報等の主な経過

日　　付	時　　刻	発　生　状　況
７月５日	１時５０分	大雨警報
７月６日	１４時３５分	土砂災害警戒情報
	１５時１８分	洪水警報
７月７日	１４時５０分	土砂災害警戒情報解除
	１４時５７分	大雨警報解除
	１６時３４分	洪水警報解除
	２２時１３分	大雨警報
７月９日	５時００分	大雨警報解除

３　被害状況

周南市では特に熊毛地区の被害が甚大となりました。人的被害のすべてが熊毛地区において発生しました。

（１）人的被害

被　害　区　分		人　　数	被　災　地　区
死　　者		1	熊毛地区
負傷者	重　傷	2	熊毛地区
	軽　傷	1	熊毛地区
	小　計	3	
合　　計		4	

（２）物的被害

被　害　区　分		戸　　数
住　　家	全　　壊	4
	大規模半壊	2
	半　　壊	３３
	一　　部	7
	床下浸水	６４
	小　　計	１１０
ライフライン	断　　水	9
	停　　電	４６０
	電話不通	２２０
	小　　計	５７９
合　　計		７９９

【出典】周南市「平成 30 年 7 月豪雨災害について」

４　避難状況の主な経過

日　　付	時　　刻	避　　難　　情　　報	
７月６日	１５時００分	『避難準備・高齢者等避難開始』発令	
		事　　由	夜市川氾濫のおそれ
		対 象 地 区	夜市・戸田地区の一部
		対象世帯等	７０２世帯　１，６９０人
	１７時００分	『避難準備・高齢者等避難開始』発令	
		事　　由	島田川氾濫のおそれ
		対 象 地 区	三丘地区の一部
		対象世帯等	５７８世帯　１，３３６人
	１８時２０分	『避難勧告』発令	
		事　　由	島田川氾濫のおそれ
		対 象 地 区	三丘地区の一部
		対象世帯等	５７８世帯　１，３３６人
７月７日	８時３７分	『避難準備・高齢者等避難開始』解除（夜市・戸田地区の一部）	
	１４時３０分	『避難勧告』発令	
		事　　由	土砂災害の恐れ
		対 象 地 区	櫛浜一部の地区
		対象世帯等	５８世帯　９２人
７月９日	１０時００分	『避難勧告』解除（三丘地区の一部）	
７月１３日	１１時３０分	『避難勧告』解除（櫛浜地区の一部）	

【出典】周南市「平成 30 年 7 月豪雨災害について」

≪発災後の被災状況写真≫

［高水地区］

［勝間地区］

［三丘地区］

Ⅱ　周南市災害ボランティアセンターの開設

１　周南市災害ボランティアセンターの開設の経緯及び経過

周南市社会福祉協議会（以下、「周南市社協」という。）では、周南市や各地区社協、その他機関と連携を図り「平成３０年７月豪雨」で被災した地区の把握やニーズ調査を行いました。災害救助法が適用にならないケースではありましたが、周南市災害ボランティアセンター（以下、「周南市災害 VC」という。）を開設し、約３週間に渡り災害ボランティアの募集や受入、派遣等を実施しました。

日　　付	内　　容
７月９日	・周南市社協内部協議のうえ、周南市災害 VC を熊毛支部内に開設決定 ・周南市災害 VC のため準備及び開設 【開設時間】１１時００分～ 【開設場所】周南市社協熊毛支部 ・ホームページへ周南市災害 VC 開設のお知らせとチラシを掲載 ・周南市、各地区社協、その他機関と連携し被災地区の把握及びニーズ調査を実施 ・ニーズの受付を開始
７月１０日	・ボランティア受入の開始 【受付時間】９時００分～１２時００分 【活動時間】９時００分～１５時００分
７月２５日	・新規ボランティアの受入を終了
７月２６日 ～２７日	・登録ボランティアのみの活動に限定
７月２８日	・事前予約ボランティアのみの活動に限定 ・全ニーズの完了
７月２９日	・周南市災害 VC を閉所
７月３０日	・周南市社協災害支援相談窓口を設置
８月１０日	・周南市社協災害支援相談窓口を閉鎖

２　周南市災害ボランティアセンターの運営

周南市災害 VC の運営につきましては、ボランティアの受入及び被災宅への派遣など、ボランティア活動が円滑に実施できるよう各班を設置し、周南市社協職員と外部からの派遣職員協力のもと運営を実施しました。

班　　名	役　　割	備　　考
総務・ニーズ受付班	・ボランティア活動希望者の予約受付 ・被災宅のニーズ受付 ・その他、各種問い合わせの電話対応 ・運営スタッフの確認や外部派遣職員の調整 ・周知用チラシの作成やホームページの更新 ・ニーズ件数、ボランティア数等の状況把握 ・必要物資の購入 ・活動証明書の発行 ・マスコミ対応 ・周南市社協本部や行政との調整 ・当日の活動（業務）報告書の作成 	周南市社協職員を配置
受付・衛生班	・個人、団体ボランティアの受付と登録 ・ボランティア活動保険の加入受付 ・名札、付箋の記入促し ・ボランティアの靴洗浄やうがい手洗いの誘導 ・おしぼりや飲料の配布（昼休憩及び活動終了後） ・活動証明書の受付 	周南市社協職員及び外部からの派遣職員を配置

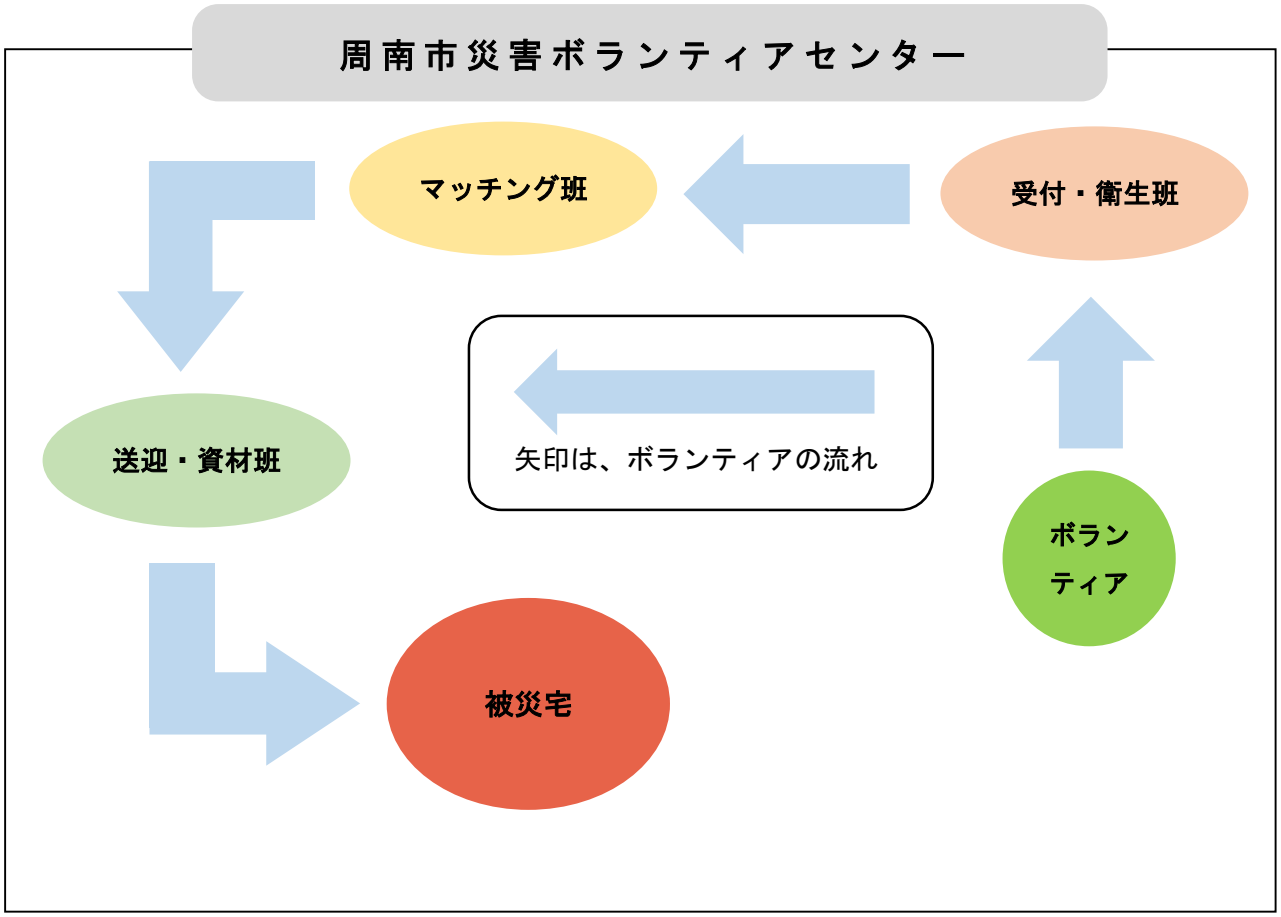
班　　名	役　　割	備　　考
マッチング班	・被災宅への訪問やニーズ把握（調査も実施） ・被災宅への前当日連絡調整 ・被災宅へのボランティアの派遣調整 ・ボランティアへの被災宅ニーズ説明 ・ボランティアリーダーの選定及び活動中の連絡調整 ・ボランティアへの活動の流れ説明（１日の流れ） ・ボランティアリーダーへ活動報告の聞き取り ・ニーズ受付票の管理 ・ボランティアへの必要な情報等チラシの作成 ・翌日のボランティアと被災宅のマッチング計画作成 	周南市社協職員及び外部からの派遣職員を配置
送迎・資材班	・周南市災害 VC から被災宅へボランティアの送迎 ・ボランティア活動に必要な資材の搬入出 ・資材の数量確認、管理 ・活動中のボランティアに水分等持参 	周南市社協職員及び外部からの派遣職員を配置
救　護　班	・ボランティア体調不良者や傷病者の応急処置、救急搬送などの判断 ・熱中症予防の注意喚起	熊毛総合支所常駐の保健師を配置

３　周南市災害ボランティアセンターの活動の流れ

（１）１日の流れ

時　　間	内　　容	役割班・備考
７時３０分	・熊毛支部へ運営スタッフ集合 ・全体ミーティング（各職員の役割、ニーズの確認などを情報共有） ・テントや必要備品の設営	運営スタッフ ※外部からの派遣職員は除く
９時００分	・ボランティア受付 ・ボランティア保険加入の手続き ・ボランティアへの派遣被災地の説明 ・随時、被災宅へ送迎（午前の部）	受付・衛生班 受付・衛生班 マッチング班 送迎・資材班
１０時３０分	・ボランティアへ水分等の提供 ※可能な時	送迎・資材班 マッチング班
１１時００分	・靴の洗浄やうがい手洗いなどの準備	受付・衛生班
１１時４５分	・ボランティア送迎（午前の部） ・ボランティア靴の洗浄、うがい手洗いの誘導	送迎・資材班 受付・衛生班
１２時００分	・ボランティア受付終了 ・ボランティア休憩	
１３時００分	・ボランティアへ再度説明し、被災宅へ送迎（午後の部）	マッチング班 送迎・資材班
１４時００分	・ボランティアへ水分等の提供 ※可能な時	送迎・資材班 マッチング班
１４時４５分	・ボランティア送迎（午後の部） ・ボランティア靴の洗浄、うがい手洗いの誘導	送迎・資材班 受付・衛生班
１５時００分	・ボランティアリーダーより活動報告	マッチング班
１５時３０分	・テントや必要備品を運営スタッフで片付け	運営スタッフ ※外部からの派遣職員は除く
１６時００分	・全体ミーティング（各班からの報告、業務日誌へ作成、明日への引継ぎなど情報共有）	
１６時３０分	・翌日のマッチングや送迎などの準備	

（２）受付からの流れ図（ボランティア）



≪災害ボアンティアセンター設営状況写真≫

Ⅲ　被災地への支援～ボランティア活動～

１　ボランティアの活動状況

ボランティアの受入を開始した７月１０日より約３週間という期間で、個人ボランティアや企業･団体ボランティア､延べ１，１６９人に被災宅の支援活動をしていただき、全５９件のニーズを完了することができました。

被災宅によって、床下の土砂出しから災害ゴミの運搬など様々なニーズがある中、連日ボランティア活動をされる方々もおられ復興支援の大きな支えとなりました。

また、重作業ができないボランティアの方々は、被災をされた方の話し相手になっていただき、被災された方の心の支えとなりました。

（１）ボランティア総数及びニーズ全体件数

日　付	ボランティア			ニーズ（件数）			
	個　人	団体数（人数）	合　計	受　付	対　応	完　了	残
７月９日	０	０（０）	０	４	０	０	４
７月１０日	１	０（０）	１	１０	１	０	１４
７月１１日	９	１（３）	１２	３	２	０	１７
７月１２日	２４	１（６）	３０	３	３	０	２０
７月１３日	２１	２（１２）	３３	５	６	３	２２
７月１４日	６８	３（４９）	１１７	１２	１６	７	２７
７月１５日	１１０	３（４０）	１５０	２	２０	８	２１
７月１６日	９１	１（１０）	１０１	７	１５	３	２５
７月１７日	２０	３（３４）	５４	１	８	１	２５
７月１８日	２６	２（２７）	５３	２	１２	７	２０
７月１９日	４１	３（５６）	９７	２	１１	７	１５
７月２０日	２２	４（４３）	６５	３	７	１	１７
７月２１日	４２	３（３７）	７９	１	１１	８	１０
７月２２日	７１	１（４２）	１１３	１	８	６	５

日　付	ボ ラ ン テ ィ ア			ニ ー ズ （ 件数 ）			
	個　人	団体数 （人数）	合　計	受　付	対　応	完　了	残
７月２３日	２２	１（４）	２６	３	３	３	５
７月２４日	３２	２（６３）	９５	０	４	１	４
７月２５日	３９	３（１５）	５４	０	３	２	２
７月２６日	２６	２（１５）	４１	０	１	０	２
７月２７日	１８	２（１４）	３２	０	１	１	１
７月２８日	７	２（９）	１６	０	１	１	０
合　計	６９０	３９（４７９）	１，１６９	５９	１３３	５９	

（２）ニーズの種別

ニ　ー　ズ　種　別	延 べ 件 数
家屋内や床下の土砂、ヘドロ（泥）撤去	４８
瓦礫や草木の撤去	４
家具の撤去や家具、家財の運びだし	２１
土嚢袋の運びだし	８
土嚢袋の積上げや詰め替え	７
ゴミの仕分けや分別、運びだし	１６
合　計	１０４

（３）ボランティア活動団体一覧（※敬称略、順不同）

団　体　名	延べ日数	延べ人数
東ソー株式会社、東ソー・ハイテック株式会社 東ソー・ファインケム株式会社	１	２３
公益社団法人周南青年会議所	３	１１
山口災害救援	６	１７
周南市役所職員労働組合	１	１９

団　　体　　名	延べ日数	延べ人数
山口県庁職員（業務派遣）	8	６５
須々万婦人防火クラブ	2	8
岩国海兵隊	6	１６７
村田株式会社	8	３２
山口県立小野田工業高等学校サッカー部	1	５３
山口県立宇部工業高等学校	1	１２
独立行政法人国立高等専門学校機構 徳山工業高等専門学校デザイン研究部	1	7
株式会社トクヤマ、トクヤマ労働組合	5	３６
社会福祉法人宇部市社会福祉協議会	1	6
リコージャパン株式会社	1	9
社会福祉法人美祢市社会福祉協議会	1	7
山口県信用農業協同組合連合会	1	8
岐山小学校父親の会	1	１１
山口県立徳山高等学校ソフトボール部	1	１６
合　　計	３８	４７９

Ⅳ　復興を支える様々な支援

１　支援金や物資の贈り物

たくさんの個人や企業･団体の皆様から、ボランティアの方々を支える支援金（善意銀行）や連日猛暑の中、ボランティア活動をする上では欠かせない飲料などの物資をご寄付いただきました。（※平成３０年９月３日現在）

（１）企業・団体の支援金寄付（※敬称略・順不同）

ご　　芳　　名	金　　額
生活協同組合コープやまぐち	１００，０００円
あやめ会	１０，０００円
周南市手をつなぐ育成会徳山地区	１０，０００円
大河内地区社会福祉協議会	２，７３７円
合　　計	１２２，７３７円

（２）個人の支援金寄付（※敬称略・順不同）

ご　　芳　　名	金　　額
白石　キヨ子	２０，０００円
河内　英助	１０，０００円
末廣　睦子	５，０００円
佃　洵	５，０００円
重本　宗一郎	２，０００円
匿名	３，０００円
合　　計	４５，０００円

（３）企業・団体の物資寄付（※敬称略・順不同）

ご　　芳　　名	物　資　名
中央フード熊毛店（丸久グループ）	飲　　料
株式会社大塚製薬工場	
村田株式会社	
公益財団法人周南青年会議所	
エフエム周南株式会社	
毛利道場	
社会福祉法人鼓ヶ浦整肢学園	
櫛浜地区社会福祉協議会	
三丘地区社会福祉協議会	
社会福祉法人山口県共同募金会	
社会福祉法人光市社会福祉協議会	
社会福祉法人岩国市社会福祉協議会	
社会福祉法人山陽ケアハウス三丘	飲　料　・　氷
社会福祉法人岩国市社会福祉協議会	塩　　飴
熊毛地区ボランティア連絡協議会	タ　オ　ル
熊毛みみずくの会	
点訳杉の会	
天ゆう会	
周南市連合婦人会	
くるみ女声合唱団、コール・かとれあ	
社会福祉法人岩国市社会福祉協議会	
社会福祉法人防府市社会福祉協議会	
社会福祉法人岩国市社会福祉協議会	衛　生　用　品

（４）個人の物資寄付（※敬称略・順不同）

ご　　芳　　名	物　資　名
福嶋　崇男	飲　　料
本田　昌弘（保護者）	
匿名	
吉浦　正男	タ　オ　ル
匿名（２件）	
藤本　英明	マ　ス　ク
吉浦　正男	
匿名	

※周南市災害 VC 閉所後残った未使用の物資については、災害ボランティアセンター開設継続中で、山口県社会福祉協議会が人的支援を継続している広島県海田町、江田島市へ送付支援を行いました。

２　外部団体の協力

連日多くのボランティアを受入れ、活動が円滑に行えるよう運営側の業務は日々絶えません。今回、ボランティアの現地派遣や活動などボランティアの受入が円滑に行えたのも、外部の関係団体の皆様のご協力があったからこそです。

周南市災害VCの運営にあたり、様々な関係機関から延べ７６人を派遣いただきました。

（１）協力団体一覧（※順不同、敬称略）

団　　体　　名	延べ日数	延べ人数
周南市	7	１７
社会福祉法人山陽ケアハウス三丘	8	１３
社会福祉法人鼓ヶ浦整肢学園	2	2
熊毛地区ボランティア連絡協議会	5	１１
久米地区社会福祉協議会	1	3
社会福祉法人山口県社会福祉協議会	１５	２４
社会福祉法人下松市社会福祉協議会	3	3
社会福祉法人防府市社会福祉協議会	3	3
合　　計	４４	７６

V　振り返り

◆課題と取り組み

約３週間に渡り周南市災害 VC の運営や活動をした中で、様々な課題が見つかりました。活動を行ううえでは、運営の準備から活動への展開まですべてを想定した取り組みが求められます。今後起こりうる災害時に迅速に対応をするために、課題から見えた取り組みを進めていかなくてはなりません。

課題		取り組み
項目	内容	
マニュアル 職員行動指針	災害 VC の運営マニュアルや職員行動指針は現行では古く、各種様式や準備物、活動範囲なども明確でなく実務では使いにくさを感じた。 また、職員は入れ替わりするのでそれに見合ったマニュアルの必要性を感じた。	職員が統一して運営から活動までを迅速に展開できるよう、今回の運営や活動を活かしたマニュアルや職員行動指針の改訂を行う。
災害VC拠点	災害 VC の拠点場所は、今回屋外であったが、ボランティアの受入の環境、休憩場所や着替える場所の確保、スタッフの連日の疲労など考慮すると、室内が望ましい。	災害は、いつ・どこで起こるか予測不可能なものであり、時期を問わない。災害 VC の拠点を設置する際は、優先して室内へ設けれるよう、各関係機関との密な連絡調整を図り拠点の確保に努める。
ニーズ調査	開設決定当初に職員が被災地域の住民と共に現地へ調査を実施し、ニーズの把握に努めてはいるものの、災害VCを運営している中で、多くのニーズが寄せられる。ニーズ調査は、マッチング班が運営中や全体終了後などに行っており、負担が大きい。	ニーズの早期把握及び早期解決へつながるよう行う、ニーズ調査班など現地調査を迅速に行える班を別枠で設置する。

課　　題		取　り　組　み
項　　目	内　　容	
資　　材	資材の確保を行ううえで、様々な関係機関より貸出をいただいた。しかし、資材が不足する場面もあり、活動に支障をきたすこともあった。また、資材の管理がうまくいかず、被災宅の資材を持ち帰る場面や逆に資材が不明になる場面も見られた。	新たな資材表の作成を行い管理徹底と引継ぎが必要。また、資材の都度回収なども視野に入れて資材回収漏れや不明がないよう、統一した方法をマニュアル改訂の際に盛り込む。
マッチング	作業の効率化を図る為、ボランティアリーダーをグループ内に設置していたが、初めて現地に入るボランティアやリーダーは、様子が分からない。運営の後半で写真を添付し説明の際に見せた方が活動がより円滑にいき良かった。	マッチングを行う際は被災地や被災宅の被災度合、被災範囲など情報が欠かせない。情報収集を行うためには、被災地域の住民もしくは地域に詳しい者の同伴は必ず必要になるためマニュアル改訂の際に盛り込む。また、被災宅情報の見える化は、ボランティア活動を円滑に進めるものであり、被災者の承諾は必要だが、必ず写真の添付が行えるよう合わせてマニュアル改訂の際に盛り込む。

V　資料

◆新聞記事

豪雨災害　光は床上、床下浸水200戸

笠戸島の県道寸断
臨時船に島民ほっと

周防大橋に集まる人たち＝下松市新川

路盤がえぐられたJR岩徳線＝周南市勝間

下松・光

周南3市を含め西日本に記録的な豪雨をもたらした梅雨前線は9日朝には遠ざかり、被災地の復旧作業が本格化している。唯一の生活道の県道笠戸島線が土砂で寸断された下松市笠戸島には9日朝から市が対岸の市の中心部とつなぐ臨時の船を出し、住民や通学の児童生徒が利用した。

光市浅江の土砂崩れで線路が埋まったJR山陽本線は徳山―岩国間で不通が続き、岩徳線も周南市の勝間―高水間の路盤流出などで全線で運休。10日現在では代替えのバスの運行もなく、たくさんの通勤、通学者に影響が出ている。岩徳線はレールが宙に浮いている状態で、工事着手の見通しも立っていない。

下松市の臨時船は9日の第1便を江の浦、深浦地区の小学生4人、中学生3人、高校生2人と大人7人が利用し、午前7時40分、新川の県漁協下松支店前のふ頭に到着した。港では下松中の藤井浩一校長も迎え、小中学生数、通学者に影響が出ている市職員が運転する市の車で下松小、下松中に向かった。

新川から江の浦に向かった福祉施設職員、横本克子さん（62）は、船で渡るのは笠戸入船がでて48年で初めて。船のおかげで安心して行き来できると明るい表情だった。

一方、光市は市のまとめで床上浸水80戸、床下浸水120戸。島田川の水がはんらんした三井地区などで泥のかき出しや消毒作業が本格化している。

10日には市社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置した。三井小体育館の約250人など最も多い時で市内全体で532人が市が開設した避難所に避難していたが、9日にはすべての避難者が帰宅した。

下松市も最も多い時で101人がほしうんどくだまつなどに避難していたが、8日夜までに全員が帰宅した。

周南（熊毛）

床上、床下浸水47戸
社協熊毛支部・災害ボランティアセンター開設

崩落した道路＝三丘地区の小松原

西日本を襲った豪雨災害を受け、土砂崩れで家屋が倒壊し、一家の害の大きかった周南市熊毛地区で9日、市社会福祉協議会熊毛支部は熊毛中央町の同支部内に「災害ボランティアセンター」を開設した。土砂崩れや浸水などの被害を受けた同地区の被災者宅の土砂、がれきの撤去、家財道具の搬出などをするボランティアを受け付けている。

同支部、市熊毛総合支所によると、10日までに島田川のはんらんで三丘地区を中心に床上浸水が27戸、床下浸水が20戸あることがわかっている。同センターは被災者宅への聞き取り作業もして復旧作業の要望などを集めており、10日までにボランティアに知って応募した時間があれば今後も手伝いたいと話していた。

うち1人が死亡、3人が重軽傷を負うなど被害が拡大した。

ボランティアセンターで受け付け

10日にボランティアに訪れた若草町の無職、友弘充洋さん（63）は「フェイスブックで災害の状況を見て、ホームページでボランティアの募集を知った」。ボランティアにはヘルメット、ゴーグル、タオル、防じんマスク、長袖、長ズボン、ゴム手袋、水筒など必要な装備で参加するよう呼びかけている。

ボランティアセンターの開設は午前9時から午後4時までで、休日も受け付ける。ボランティアの参加、受け入れの問い合わせは同センター（0833・92・0027）へ。

柳井―徳山間に代行バス
JR・岩国―柳井間で運転再開

西日本豪雨

岩国―徳山駅間で運転見合わせが続いていたJR山陽本線は岩国―柳井駅間で17日から運行を再開し、柳井―徳山駅間の代行バスの運行も始まった。

この運休は光市浅江で土砂崩れで線路が埋まったため、岩国―柳井駅間は通常より便数を減らして運行する。

代行バスは徳山駅発の上りが21本で、このうち午後10時43分発の最終便は光駅まで、下り便は光駅発。最終便は19便で、始発から3便は光駅発。最終便は柳井駅から光駅まで。

平成30年7月17日　日刊新周南

■ 光・周南 ■

三井、小周防、三丘…

3連休で延べ1088人 土砂かき出し

災害ボランティア活躍

[illegible]

土砂を搬出する[illegible]（周南市[illegible]）

西日本豪雨

西日本豪雨災害で県内は周南、光、岩国市で災害ボランティアセンターを各市社会福祉協議会が開設し、連日、ボランティアを受け入れている。周南、光市では特に連休となった14日から16日までの3日間、猛暑の中を延べ1088人のボランティアが島田川のはんらんで浸水した地域の住宅からの泥のかき出しや使えなくなった家具の移動などに取り組んだ。

◇

三井、小周防などで大きな浸水被害があった光市の災害ボランティアセンターは11日から活動を開始。初日のボランティアは24人だったが、12日は59人、13日は68人に増え、14日は191人、15日は340人、16日は189人が訪れた。労働組合の自治労から3日間とも7、80人ずつ、15日は米軍岩国基地から海兵隊員70人が参加した。職場ぐるみで訪れたグループも目立った。

同市のボランティアセンターは光井の市社協事務局もあるあいぱーく光健診ホールに設置。市社協や応援の県内市町社協、県社協の職員20人と、受付は婦人会が担当するなど市民も運営を支えている。

市内外や各地から訪れたボランティアは長袖に長靴、飲み物や弁当も持参し、その場で受け付けをすませてマッチング会場で説明を受ける。15分ごとに休憩するなど熱中症予防の注意も聞き、作業の内容と場所の指示を受け、その場でリーダーも決めて次々に出発している。

15日までに寄せられたボランティア派遣の要請ニーズは91件で、15日までで完了は23件。また三井の温泉施設「ゆーぱーく」がボランティア活動に参加した人に無料で温泉を開放している。

同市社協の小西俊弘事務局長は「たくさんの人が来てくれて感謝の思いでいっぱい」と話している。

受け付けは午前8時半から正午まで。同センターの電話は0833・74・3020、74・3023。

◇

周南市社協の災害ボランティアセンターは熊毛中央町の市熊毛総合支所そばの市社協熊毛支部に開設。9、10日はニーズの把握に取り組んで11日から本格的に災害ボランティアを受け入れ、三丘地区など浸水被害が大きかった地域などで活動してもらっている。

11日は周南青年会議所などの12人、12日は30人、13日は33人だったが、14日は117人、15日は150人、16日は101人が訪れた。17日は米軍の海兵隊員19人も参加した。15日までに39件のニーズが寄せられ、終了は18件。

受け付けは午前9時から午後4時まで。電話は0833・92・0027。

左から木村市長、村田部会長、岩本[illegible]

被災地復旧に10万円

AYSA婚活支援部会が贈る

西日本豪雨

周南市の県アクティブシニア協会・AYSAの婚活支援部会（村田博治部会長、7人）は17日、西日本豪雨の被災地支援に使ってほしいと市役所に村田部会長(72)ら4人が訪れて10万円を贈った。市は災害復旧などの事業に活用する。

同部会は2011年8月に発足して結婚相手紹介サービス「愛SA幸せエンジェル」を運営し、登録者は約200人。

市内では熊毛地区を中心に土砂崩れや床上・床下浸水の被害を受けた家庭も多く、1人亡くなっていることから支援を決めたもの。寄付金は入会金や成婚時の礼金などの収入からねん出した。

この日、岩本龍雄、大寺和美、村田山紀枝さんと訪れた村田部会長は「会員は高齢なのでボランティアより寄付がいいだろうと決めた。1日も早く普段の生活に戻れるように使ってほしい」と話し、市長は先週の3連休には高校生や地元の企業、市、県の職員などがボランティアに来てくれたことも紹介しながら感謝していた。

このほか市はふるさと納税のウェブサイト「ふるさとチョイス」で豪雨災害に伴う寄付を募集しており、19日現在で122件の計171万3500円が寄せられている。

平成30年7月20日　日刊新周南

へてからの会が 5万5456円

市内の被災地へ贈る

西日本豪雨

平成３０年７月豪雨

周南市災害ボランティアセンター活動報告書

平成３０年９月

社会福祉法人 周南市社会福祉協議会
〒745-8529　周南市速玉町 3-17
TEL:0834-22-8721　FAX:0834-32-0021